

県小体研だより

鳥取県小学校体育研究会 令和5年8月発行

<県夏季研修会>

8月1日、米子コンベンションセンターで本番さながらの領域別分科会プレ発表、そして日野先生の講演と全体指導が行われました。事務局想定以上の140名超が参加し、熱を帯びた視線と討論が各所で見受けられました。

<7し発表>

目玉の一つ「準教科書・わたしたちの体育」の活用が分かる授業

ほとんどの分科会で、その活用例を紹介していました。当日の公開授業での活用と合わせて、中四国の多くの先生方が「わたしたちの体育の効果的な活用」を大いに意識する大会となりますはずです。



目玉の一つ「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方が分かる授業

日野先生も話されましたが、この目玉がどう成果につながったかをさらに発表で意識する必要があります。

「する・みる・支える・知る」

↓ ↑

「成果」

多様な関わり方を仕組んだ結果、このような「もっと楽しい体育」につながった、ということ。

<全体指導 by 日野先生>

○子供の変容を

- ・before、after を紹介すること
- ・リアルな姿、質的变化を紹介（数値よりも）

○発表にあたって

- ・見やすく わかりやすく 使いやすい（お土産的な内容） 時間を踏まえた内容の整理
- ・「わたしたちの体育」等の活用例の紹介を！ 中四国で作成、使用されているもの。ぜひ使い方の発信を補助資料でも。
- ・配布資料、補助資料や実物の準備（参加者のお土産になる）

・「浸っている」の表現や姿、感じ方は、それぞれの先生方のとらえでよい。

・一層の目玉アピールを！

・授業の取組はホットに、研究の振り返りはクールに！

「日野先生の言葉」

何を発表したかよりも 何が伝わったか

<編集後記>

研修会の日（8/1）で、大会当日まで残り94日。この構想（東・中・西部で3年連続の県大会、西部で中・四国大会）の誕生は、平成30年度まで遡ります。長い期間、多くの先生方にお世話になっています。ありがとうございます。酷暑が続きます。ご自愛ください。

（文責 県小体研・顧問 長谷川）